

GRIガイドライン第4版への対応

2013年5月、持続可能性報告書の国際的ガイドラインを策定・発行する国際NGOであるGlobal Reporting Initiative (GRI) は、内容をこれまでの「網羅的な情報開示」から、「重要課題（マテリアルな側面）に焦点を当てた情報開示」を求めものへと改訂したGRIガイドライン第4版 (GRI-G4) を発行しました。これは、経営がCSRにより深く関与することで、企業が意思を持って報告する内容を決定していくことを

目的としたものです。2016年以降はGRI-G4に基づいて報告することをGRIは求めているため、TDKでは、重要課題（マテリアリティ）の特定を以下のプロセスで進めています。

2014年度は、自社視点での重要課題特定までを完了しました（ステップ1、2）。今後は、ステークホルダー視点での優先順位を検討し、2016年にはその結果を報告するとともに、GRI-G4に準拠した情報開示を目指してまいります。

前段階 (2013年度実施)

1. 現状分析

現在の情報開示レベルをGRI-G4の要請に照らし、対応項目と未対応項目の内容と程度について現状分析を行いました。

2. 理解促進

GRI-G4の意図を正しく理解するため、GRI G4 Certified Training Courseを受講しました。

3. 情報源整理

重要課題（マテリアルな側面）の特定に向け、社会課題を幅広く抽出するため、ステークホルダー別に応じたような方法で意見を収集し、対話を行っているかを整理しました。



ステップ1、2 (2014年度実施)

1 社会課題の抽出

ステークホルダー別の情報源から、日々のコミュニケーションの内容を確認するほか、ISO26000などのCSRに関する国際的ガイダンス文書を参照し、さまざまな社会課題をシミュレーションしました。

2 自社視点による優先順位づけ

上記で抽出した社会課題に対して、「経営戦略」、「当社グループの事業が社会に及ぼす影響度」、「ステークホルダーの関心度」、「現状の対応」に基づき、自社視点による優先順位づけを、「優先して取り組む課題（優先度：高）」、「社会からの要請、期待などを把握しながら対応する課題（優先度：中）」、「将来的な課題として認識する課題（優先度：低）」で整理しました。

右記は、自社視点による優先順位づけの結果、「優先して取り組む課題」として挙げたものです。シミュレーションによると、従来から取り組んできた4つのCSR観点での重要な活動項目の重要性があらためて確認されました。

1. 技術による世界への貢献

- 重点3市場における新製品開発・拡販
- 高い技術力に基づく「ゼロディフェクト品質」の追求
- 環境貢献製品の拡販

2. 人材の育成

- グローバル人材の育成
- 多様性を尊重する企業風土の醸成

3. サプライチェーンにおける社会・環境配慮

- 生産拠点における労働環境配慮
- サプライヤーにおける労働環境配慮
- 紛争鉱物対応
- 製品の安定供給

4. 地球環境との共生

- エネルギー問題への対応
- CO₂排出量削減
- 資源の有効活用



ステップ3、4 (2015年度実施予定)

3 ステークホルダー視点による優先順位づけ

ステークホルダー視点の優先順位づけを有識者の意見などを踏まえて行います。

4 マテリアリティの確定

TDKグループとして、経営層への承認を得てマテリアリティを確定します。